

「農業技術の匠」： しもがわら 下川原 しげお 重雄 さん（ 岩手県洋野町 ）
～ ヤマブドウの安定生産 ～



〔下川原 重雄さん〕

1 技術確立の背景(目的)

ヤマブドウ (*Vitis coignetiae*) は従来、山に自生しているものを採取していましたが、地域特産作物として注目を集めるようになり、需用が増加してきました。

このため、岩手県久慈地方では、平成11年以降増殖に取り組んできましたが、栽培及び試験研究事例が少ないこともあり、安定生産が課題となっていました。

2 技術概要(技術効果)

下川原さんは、ヤマブドウの栽培及び試験研究事例が少ない中、独自に研究を重ね、従来の加工用ぶどうとは異なり、結果枝を下垂させる大野式下垂仕立てを考案しました。

この仕立てにより、枝の伸長が旺盛なヤマブドウの生長を抑え、安定的な花芽の着生に効果を上げています。

また、雌雄異株であることから、雌樹の間に効率的に雄樹を配置する植栽方法を考案しました。

この植栽方法により、隔年結果性の強い特性にも関わらず、安定的な生産量の確保と高い単収を実現しています。

さらに、豊作年にはお礼肥を施し、樹勢の衰弱と翌年の花芽確保に配慮した栽培を実施しています。

3 技術の地域への活用状況(普及状況)

平成17年に設立した久慈地方ヤマブドウ振興協議会(約40名の生産者で組織)の会長を務めるほか、各種研修会で講師を務め、大野式下垂仕立て、植栽方法(雄樹の混植割合増加)などの栽培技術を普及しています。

また、平成20年3月に発行した「久慈地方ヤマブドウ栽培マニュアル」の作成にあたっては、全面的に独自技術を提供し、技術の伝承・普及に努めています。

こうした取り組みもあり、久慈地方におけるヤマブドウの単収(10aあたり)は、平成17年度の101kgから、平成19年度の289kgへと向上しています。



〔収穫前のヤマブドウ〕

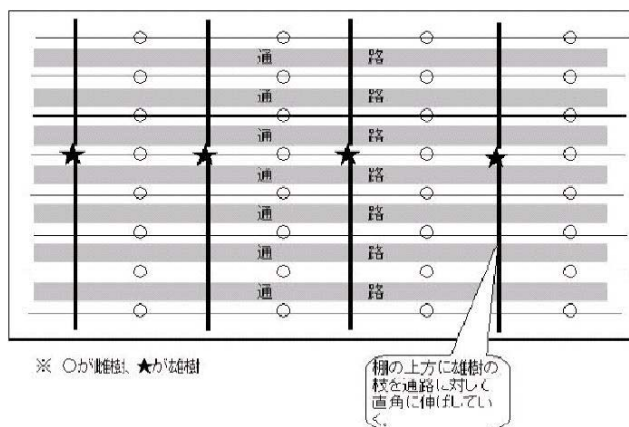
※最寄りの普及指導センター { 岩手県久慈農業改良普及センター
住所：岩手県久慈市八日町1-1久慈地区合同庁舎
TEL：0194-53-4989

<「農業技術の匠」のポイント>

雄樹の適正な混植による安定結実

- ① 普通のぶどうに比べ、葉が大きく、枝の伸長が旺盛なヤマブドウの枝の巻きひげを切除し、下垂させることにより枝の伸長と葉面積の肥大を抑え、花芽の安定着生を図る。
- ② ヤマブドウの花粉は風媒が少ないことから、雄樹の適正な混植方法により、安定結実を図る。
- ③ 豊作年の結実確認後にお礼肥を実施することにより、隔年結果を抑制する。

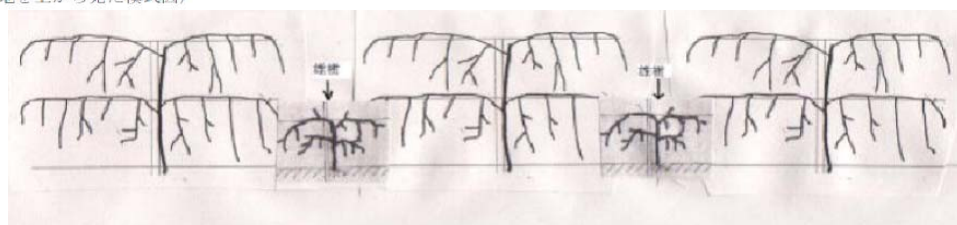
<雄木の植栽例>



雄樹の植栽例 (園地を上から見た模式図)



雄樹の配置(矢印の場所)



雄樹の植栽例 (雌の樹の間に植栽する)

<長梢剪定(大野式)>

